

第3回四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展

四国のハニワ

平成29年10月3日(火)～12月22日(金)
9時～17時 ※土・日曜・祝日は休館

四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展は四国の古代史や遺跡を広く知っていただくために、四国内の埋蔵文化財センター5団体が合同で開催する巡回展で、3回目となる今回のテーマは「四国のハニワ」です。

日本列島では3世紀から7世紀前半まで有力者を葬るため、古墳と呼ばれる大きな墓が造られました。死者を送る儀礼等のために、古墳に立て並べられた土製品が埴輪(はにわ)です。埴輪には筒状の円筒埴輪と、家・人物・動物などをかたどった形象埴輪があります。円筒埴輪は古墳の墳丘に垣根のように立て並べ、古墳という聖域を区分する目的で配置されたものと考えられています。また、形象埴輪は埋葬施設の周囲などに並べられ、死者を送る儀式に使用されたと考えられています。現在の古墳は、木や草に覆われていますが、古墳が完成した千数百年前には何も生えておらず、当時の人々は大きな古墳とその上に並ぶ埴輪を見て、そこに眠る人の権威を感じたこととされます。

今回の展示会は、四国の各地から出土した埴輪35点を一同に集めたもので、円筒埴輪、朝顔形埴輪、家形

人物埴輪 ▶
鶴が峠古墳群
L区1号墳出土
(愛媛県松山市)
写真:松山市立埋蔵文化財センター提供



家形埴輪
別宮北2号墳
出土(坂出市)



▲展示室風景

埴輪、船形埴輪、人物埴輪、鳥形埴輪、馬形埴輪などさまざまな埴輪を展示しています。この機会に埴輪について知っていただくとともに、古墳時代の人々の造形技術や感性の豊かさなどをご覧ください。

県指定有形文化財(考古資料)に指定されました

上天神遺跡出土 辰砂関連資料

当センター収蔵の「上天神遺跡出土辰砂関連資料」(1261点)が平成29年8月、香川県の有形文化財(考古資料)に指定されました。

上天神遺跡は、高松市上天神町・三条町に所在する遺跡です。昭和62年から平成4年にかけて国道11号バイパス建設(上天神交差点付近)に伴い発掘調査が行われ、弥生時代後期初頭の大集落をはじめ多くの遺構・遺物が見つかりました。

辰砂とは硫化水銀からなる赤色の鉱物です。縄文時代から土器などの表面に赤色顔料を塗るなど、赤色顔料は古くから使われていました。その原料は主に辰砂(水銀朱)とベングラ(酸化鉄)がありますが、辰砂は産地が限られ、入手が難しいこともあり、貴重品でした。

赤い辰砂を取り出すには、辰砂を含む岩石を砕いたり、すり潰したりします。辰砂が付着している土器は、内面に辰砂が付着しているものも多いため、辰砂の粉末に何らかの液体を混ぜて、一時的にこれらの土器に貯えていたと考えられます。

なお、他の遺跡からも辰砂の付着した土器が出土しますが、多くて数十点程度であることに比べると、本資料の点数は突出しており、辰砂という特殊な素材を用いる作業が他に例を見ない特異にして集中的なものであったことがうかがえます。



▲上天神遺跡調査風景



▲上天神遺跡出土辰砂関連資料の一部(よく見ると内側に辰砂が赤く残っています)



※国土地理院地形図 高松北部・高松南部 (1/25,000) を使用しました

大規模な古代の灌漑用水路がみつかりました



▲平成27年度の調査で見つかった灌漑用水路



▲今年度の調査で見つかった灌漑用水路 平成27年度調査区の西側に当たります

内間遺跡

この地域は古墳がほとんどない地域ですが、8世紀になると集落が成立し、大開発が行われたことがわかってきました。

内間遺跡は東かがわ市町田にある遺跡で、国道11号大内白鳥バイパスの建設に伴い、今年9月から来年1月まで発掘調査を行っています。

この遺跡では過去2回の調査(平成26・27年度)で2級河川の番屋川から導水したと考えられる幅5mを超える8世紀の灌漑用水路が見つかりました。今回の調査ではその延長部分がみつき、用水路は総延長250m以上になることが確認されました。



2017年11月

発行:
香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024
香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
tel: 0877-48-2191 / fax: 0877-48-3249
HP: <http://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/>
E-mail: maibun@pref.kagawa.lg.jp